

創立 25 周年記念誌の刊行について

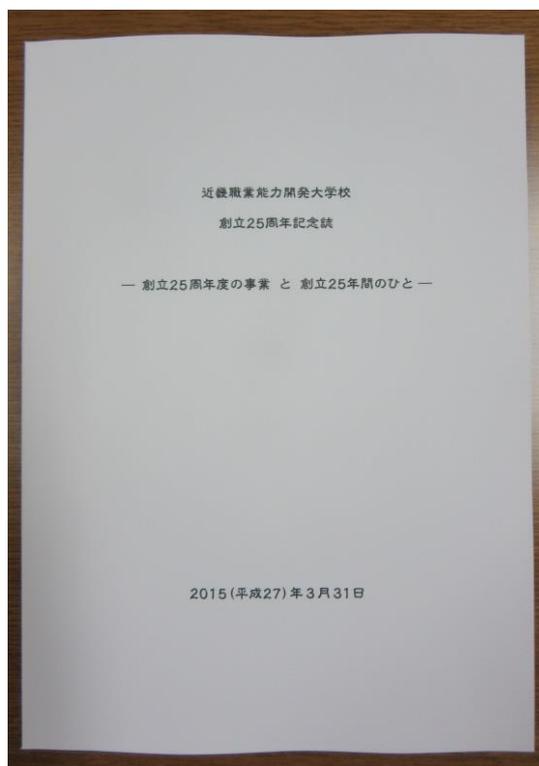
校長 牧野俊郎

本大学校に『大阪総訓校 30 年の歩み』[1]という冊子が残されている。その冊子と大学校に保管されているその学校の学籍簿から推察すると： 1958(昭和 33)年に大阪府布施市(現 東大阪市)に大阪総合職業訓練所という学校が設立された。その学校は、後に大阪総合高等職業訓練校(大阪総訓校)と改称して、1990(平成 2)年 3 月まで存続した。その学校では、おもに中学校を卒業した生徒に対しておもに 2 年間の職業訓練を施してきたようである。

1990(平成 2)年 4 月に、大阪総訓校の後継校として、大阪府岸和田市にわが近畿職業能力開発大学校の前身であった大阪職業訓練短期大学校(大阪短大)が設置された。大阪短大には大阪総訓校から多数の指導員・事務職員が移籍した。すなわち、教職員については両校の連続性は強かった。いっぽう、大阪総訓校がおもに中学校卒業の“生徒”を対象としてきたのに対して、大阪短大はおもに高校卒業の“学生”を対象とする 2 年制の学校として出発し、1999(平成 11)年 4 月には 2 年制の後期課程(応用課程)を設けて(2+2)年制の近畿職業能力開発大学校に発展した。

本大学校は 1990(平成 2)年 4 月 1 日に創立されたと見なされる。については、本大学校は 2015(平成 27)年 3 月 31 日に創立から満 25 年を迎えることになった。25 年は四半世紀であり、切りのよい年である。切りのよい年にはなにかの記念事業を行うのがよいが、この校長は、多くのデータを含む記念誌を発行するのが相応しく、それは 10 年後にはより重要な意味をもつものになるであろうと考えた。

記念誌のタイトルは『近畿職業能力開発大学校 創立 25 周年記念誌』とし、「創立 25 周年年度の



事業 と 創立 25 年間の ひと」の副題をつけた。表紙・背表紙の下部には大学校が 25 歳になる日「2015(平成 27)年 3 月 31 日」を入れた。その記念誌の 巻頭言 と もくじ は次のとおりとした：

創立 25 周年を迎えて

近畿職業能力開発大学校は、1990(平成 2)年 4 月に大阪職業訓練短期大学校として大阪府岸和田市に設置され、2 度の学校名変更といくたびかの学科名の変更を経て、2015(平成 27)年 3 月 31 日に満 25 年を迎えるにいたりました。その間、2 年制の前期課程(専門課程)においては生産現場/フロンティアで活躍できる実践技術者(テクニシャン・エンジニア)の育成をめざし、+2 年制の後期課程(応用課程)においては生産技術・生産管理部門のリーダーとなりうるひとの育成をめざして、教育訓練事業を展開してまいりました。大学校の卒業生は延べ 4,463 名にのぼります。また、地域の産業界・地域住民の方々との連携を図るべく、セミナー・共同研究・出前授業などの多彩な事業を展開してまいりました。この 25 年間の大学校の教職員は延べ 300 名を越えます。

25 年は四半世紀であります。この間大学校が成長しつづけることができたのは、本校に在籍した教職員の努力があったことはもちろんですが、地域の行政機関・企業の方々から温かいご理解・ご支援をいただいていたことによるものであったのだと思います。厚く御礼申しあげます。

大学校が創立 25 周年を迎えて何かの記念事業をなすべきでしたが、その「何か」はこれまで 25 年間の大学校と 25 年めの大学校の姿を記録するハードのデータ集の刊行であるのがよいと考えました。そこには 25 年間のこの大学校の健全な発展に貢献してきた教職員の名前を残したいと思いました。また、この大学校の主たる事業であった学卒者訓練において、学生と教員は 2 年間あるいは 4 年間の大学校での努力を集大成する卒業制作で何をつくってきたのか、それを示すことが大学校の存在意義を示すために重要なことであると考えました。

ついでに、記念誌には、創立 25 周年度(2014(平成 26)年度)の大学校の事業を報告するとともに、多くのページをとって創立 25 年間の大学校の ひと の名前を紹介することにしました。なんページにもわたる記念誌の表の行間から 25 年間の大学校の来し方をご賢察いただければ幸いに存じます。

2015 年 3 月 31 日

近畿職業能力開発大学校
校長 牧野俊郎

もくじ

創立 25 周年を迎えて	1
大学校の沿革	2
ぐらびあ： 25 年の 初め と いま	4

25年めの卒業制作 すぐれた作品	8
創立 25 周年度の大学校の事業	9
1. 大学校の敷地・建物・職員・学生	10
2. 平成 26 年度事業の計画と実績	10
3. 学卒者訓練	11
4. 在職者訓練	16
5. 相談・援助事業	18
6. 人材育成研究会	21
A. 参考資料	23
A. 1 平成 26 年度近畿職業能力開発大学校業務運営方針	23
A. 2 職業能力開発大学校と国立工学系大学の比較	26
A. 3 ポリテクカレッジにおけるPDCAサイクルを通じた訓練内容等の見直し	27
A. 4 ものづくり現場の課題を取り入れた訓練	28
A. 5 専門課程活用型デュアルシステム訓練	30
A. 6 在職者訓練（能力開発セミナー）	31
A. 7 ものづくり体験教室	36
A. 8 高校・大学等との連携	37
A. 9 年間行事	38
創立 25 年間のひと	41
歴代の教職員とその在職期間	42
巣立った卒業生の数	49
平成 25 年度卒業研究報告書の刊行と過去の卒業研究報告書の収集	50
大学校の科の変遷と卒業研究/制作報告書の保管状況	54
卒業研究/制作の記録	55
大阪職業訓練短期大学・大阪職業能力開発大学校の時代	55
近畿職業能力開発大学校の時代	79
	~155

記念誌は「創立 25 周年度の大学校の事業」と「創立 25 年間のひと」の 2 部構成のものとした。初めの「創立 25 周年度の大学校の事業」については、創立 25 周年度である平成 26 年度の事業報告の 3 月 31 日現在の分をそのまま用いた。いっぽう、「創立 25 年間のひと」については、かなりの時間と労力を要してとりまとめた。次のとおりである。

記念誌のページを打った計 155 ページのうちの 101 ページは、25 年間の卒業生の「卒業研究/卒業制作の記録」のリストに費やした。卒業研究/卒業制作は大学校における教育訓練の集大成となるものであり、大学校の存在意義をもっとも明に示すものであると考えたからである。そこには卒業研究/卒業制作の課題名・卒業生の氏名・指導教員の氏名を可能な限り掲載した。このような記録

が可能であったのは前年度（2013(平成 25)年度）に行った「過去の卒業研究報告書の収集」作業 [2]とこれまでに本大学に在籍された教員の先生方の情報提供のお陰である。

「歴代の教職員とその在職期間」については、ページ数は 7 と少ないが、そのページの作成には想いのほか時間を要した。当初このようなものを作るには一週間もあれば十分であると想っていたが、そうではなかった。少なくともすぐに表にできるような形での記録はなかったからである。大学に分散して残る資料や昔を知る数少ない教職員の記憶を頼りに、横軸に年次、縦軸に所属の課/科の表を作り上げた。ところで、いったんこのような表が記念誌に出てしまうと、たとえ誤りが含まれていても、それは正史として永く残ることになる。注意しなければならない。ついては、誤認のリスクを最小化するために、表にはデータの信頼性の程度を表示する色の濃淡を施した。

ともあれ、2015(平成 27)年 7 月 29 日(大安)づけて記念誌を発行することができた。その記念誌は A4 判で厚さ 8 mm のものであり、昔の「〇〇白書」のような飾り気のないシンプルなものである。すこしよい 90kg/m² の紙を用いたことによるが、重いものになった。この記念誌は 300 部印刷し、本大学に関連の大学や高校・企業・国立国会図書館を含む図書館、さらにこの記念誌の作成にご協力いただいた方々にお送りした。たまたま、この機会に校長の任にあった私には、肩の荷を下ろすことができたように感じられた。

[1] 大阪総合高等職業訓練校記念誌編集委員編：大阪総訓練校 30 年の歩み, 108 pages, Mar.1990.

[2] 牧野俊郎：平成25年度卒業研究報告書の刊行と過去の卒業研究報告書の収集, *近畿能開大ジャーナル*, no.22, pp.17-20, Nov.2014.